

サガハイマツト通信

VOL.10

(平成27年7月号)

7月18日に一般公開



昨年的一般公開で重粒子線の照射について説明を受ける参加者

CONTENTS

- 新理事長・中川原章氏にインタビュー
- 粒子線がん治療の相談窓口
- 【お知らせ】一般公開においでください！
- 【スタッフ紹介】医事課長 荒尾恵子



サガハイマツトは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツトの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**

(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)

メール **saga-himat@saga-himat.jp**

中川原新理事長 インタビュー



中川原章 (なかがわら・あきら)

1947年生まれ。72年、九州大学医学部卒。千葉県がんセンターセンター長を経て、2014年4月、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事長に就任。15年6月から公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団理事長に就任。鳥栖市出身。

大学、地域との

6月15日、サガハイマツ前理事長の十時忠秀氏が任期満了により退任し、同日付けで新理事長に中川原章氏が就任しました。中川原氏は、佐賀県医療センター好生館の理事長も務め、サガハイマツとは併任になります。開設から2年が経ったサガハイマツの可能性と、今後の抱負などを聞きました。

次のステージの橋渡し役に

▼サガハイマツ理事長に就任した感想は。

サガハイマツは、開設から2年が経ちましたが、当初予定していた患者数を大きく上回り、すでに800人を超える実績を残しています。地域別にみると、佐賀県内はもちろん、九州全域、遠くは中国、四国、関東からも患者さんが訪れるなど、サガハイマツの全国的な知名度が高まっていると実感しています。

鳥栖市は私の出身地なので愛着があり、また専門分野もがんということもあって、サガハイマツで仕事をさせてもらえることに感謝しています。

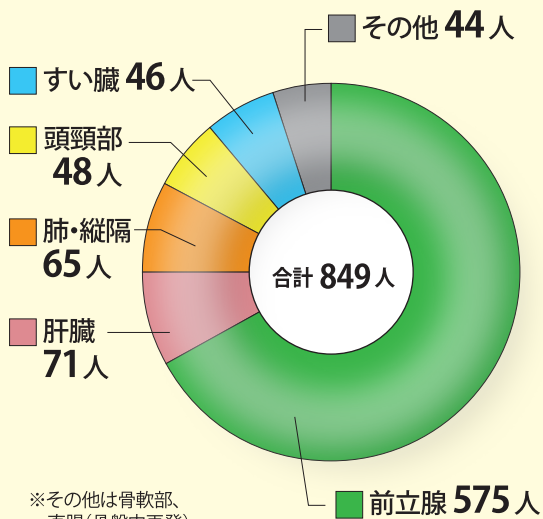
サガハイマツは、十時前理事長の強力なリーダーシップの下、立ち上げから現在までとても順調に推移しています。陸上の三段跳び「ホップ、ステップ、ジャンプ」にたとえるなら、十時前理事長は「ホップ」の段階を十二分にクリアされたと思います。私はその次の「ステップ」の段階。これまで以上にサガハイマツを軌道に乗せ、その次の「ジャンプ」へ向うための橋渡し役として尽力したいと思います。

▼これまでのサガハイマツをどう評価しているか。

サガハイマツで行う重粒子線治療は、日本で開発された治療技術であり、先進医療です。とりわけ素晴らしいのは、この医療資源を生かすための九州内

サガハイマツでの部位別治療患者数

(2015年6月末現在)



医療連携深め飛躍目指す

での広域医療連携が取れていることです。鳥栖は交通の要衝であるため九州各地からのアクセスに恵まれ、佐賀大学、九州大学、久留米大学をはじめとする九州内の大学病院との連携が取りやすく、大学病院以外の他の医療機関や医師会との連携も良好です。何もなかったところから日本でも数少ないがん治療施設を建設することは大変だったと思いますが、地の利を生かし九州の医療が一つになったと実感しています。

▼今後の重粒子線治療のあり方や、サガハイマツで取り組むべきこと。

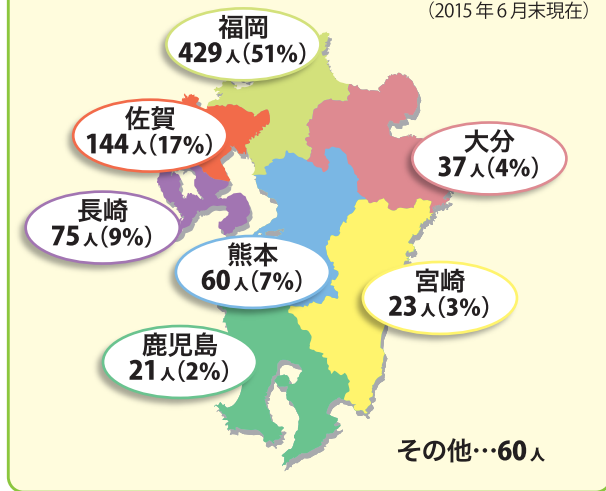
サガハイマツで行う重粒子線治療は、放射線治療の一つであり、体を切らずにがんを治療できるという特長があります。がん治療には、重粒子線以外の放射線治療だけでもいくつもの選択肢があるほか、手術、抗がん剤を使った化学療法や免疫療法もあります。これからのがん治療には、これらの治療法をどう組み合わせていくかがますます求められてくると思います。この組み合わせがうまくいけば、さらに治癒率も上がります。そのためにはサガハイマツと大学、地域の拠点病院、かかりつけ医等との連携は欠かせません。九州の交通の要衝という利点を生かし、九州すべての大学と治療法などの開発に努め、全国から訪れる患者さんがよりよい治療を受けられる体制を作りたいと思います。

現在は、前立腺をはじめ、肺、肝臓、膵臓や頭頸部、骨軟部などのがんが治療対象ですが、今後は治療対象となる部位を増やしていく予定です。具体的には、食道がんや子宮がんの治療が始められるよう取り組んでいきます。

幸いなことに、サガハイマツは佐賀県や鳥栖

サガハイマツにおける地域別治療患者数

(2015年6月末現在)



●粒子線がん治療の相談窓口

粒子線治療を希望する患者さんに対し、「粒子線がん治療外来」が佐賀、福岡県の4つの大学に開設されています。患者さんへの情報提供のほか、適応判断、適応する患者さんの治療施設への紹介、治療後の経過観察などを行っています。

受診を希望される場合は事前に電話でお問い合わせください。

九州大学病院 放射線科

電話:092-642-5705 診察日:水曜(午前・予約制)

久留米大学病院 内科総合外来

電話:0942-31-7611 診察日:木曜・月曜※・金曜※(午後・予約制)
※月曜・金曜は可能な日が限られています。

佐賀大学医学部附属病院 放射線科

電話:0952-34-3482(地域連携室) 診察日:月曜・金曜(午後・予約制)

福岡大学病院 放射線治療相談外来

電話:092-801-1011(代表) 診察日:火曜(午前・予約制)

市をはじめ、各種団体からのサポートも多く、たくさんの方々に支えられてきました。それだけ期待が大きいのだと実感しています。たくさんの方々の支えや期待に応えるためにも、患者さんと直接向かい合う現場スタッフの意見に耳を傾け、患者さんがよりよい治療を安心して受けられるように努めたいと思います。

一般公開に
おいでください!

7月18日に加速器室などを一般公開

7月18日(土)午前10時から午後3時まで、サガハイマツを一般公開します。一般公開は年に1回のみで、今回で3回目。治療室や直径20mのシンクロトロンがある加速器室など、普段見られない設備を見学できます。



加速器室の説明の様子

昨年7月の一般公開には佐賀県内外から約1200人が訪れ、重粒子線がん治療の理解を深めました。見学コースは玄関ロビー、診察室、治療ホール・治療室、加速器室などで、各ポイントで重粒子線がん治療についての説明があります。

当日は、サガハイマツの正面玄関で先着順に受け付けます。事前申し込みは不要ですが施設管理の都合上、当日の受け付けの際に住所、氏名の記載が必要です。なお、敷地内に車の乗り入れはできません。公共交通機関をご利用ください。

日 時 7月18日(土)10:00～ ※最終受付は 14:30

受付場所 サガハイマツ正面玄関

問い合わせ 佐賀国際重粒子線がん治療財団 電話:0942(81)1897

※診療や装置の状況、その他やむを得ない理由により、一般公開の一部、またはすべてを予告なく中止する場合があります。

患者さんのご家族の短歌が入選しました!

重粒子ガン病巣を狙ひ撃つ 先進医療に妻は救はる

5月に開催された「第51回久留米短歌大会」(久留米連合文化会主催)で、サガハイマツで治療を受けた患者さんの家族が詠んだ短歌が入選しました。治療を受けた妻を思いやる心が伝わる一首です。

スタッフ紹介

医事課長 荒尾 恵子さん

【略歴】

あらお・けいこ■1954年生まれ。熊本県玉名市出身。78年国立熊本病院を始め36年間国立病院勤務後、2014年5月から佐賀国際重粒子線がん治療財団勤務。趣味は山歩き、城めぐり。



適切な対応で治療の一助に

サガハイマツに勤務する前は、九州管内の国立病院に36年間、9カ所の病院で事務全般に携っていました。特に、医療事務業務は長く、急性期医療や長期慢性疾患等いろいろな病態に関わってきました。粒子線治療については、8年ほど前に知り、関心を持っていました。

重粒子線治療を行うサガハイマツに、平成26年5月から勤務し、医事業務を行っています。医事課スタッフ一同、心地よい適切な対応で治療の一助になるようにと考えています。

●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツへのご支援をよろしくお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマツ通信 vol.10

(平成27年7月号)

【お問い合わせ】

発行 ■ 公益財団法人
佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当) 落合

住所 ■ 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町3049番地

TEL ■ 0942(81)1897 FAX ■ 0942(81)1905

HP ■ <http://www.saga-himat.jp/>